



114  
A1270



地所貸渡条例

第一条

貫舊へ布達スヘキ部

一 地所貸渡ノ儀ニ差許候ニ付テハ各地方所屬ノ貫  
屬ヘテノ通り不洩様解レ知ラシムヘキ事

布達按

一 官有ノ宅地耕地城郭跡屋鋪跡其<sup>他</sup>荒蕪地山  
林及ヒ村方組合村々ニテ故障無之公有地等相當  
ノ年季ヲ定メ貸渡候条拝借相願度ニハ九ノ  
雛形ニ准シ来ル何月何日ヲ限當<sub>縣府</sub>廳へ願書  
差出シ可申事

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

願書書式

一 私儀 宅地 耕地 山林 荒蕪地 欵 并 墾 牧 蓄 何々ノ見込ヲ以テ持

借付仰付下置候様奉願候以上

年月

如何大邑小何邑何町何村 士族

何之誰不

何殿令参事何宛

一 右之外前以解レ示サシテ不都合ノ廉々適宜順序  
ヲ以テ条例中ヨリ掲載イタスヘキ事

第二条 此所惟願ニテ着手ノ順序

一 願書差出シ期限満ルニ及ビ宅地耕地又ハ荒蕪地山  
林亦願人ノ地種品目ヲ区分シ何地願ノ者何人何地  
願ノ者何人ト取調置可申事

第三条 同前

一 貸渡地所ノ儀ハ其土地従前ノ形態ニ就キ廣狹肥  
瘠アリテ必ラス平等ニ貸渡スコトヲ得サルヲ以テ偏重  
偏輕ノ苦情無之タメ闡取ヲ施行イタシ持借地ヲ  
定ムヘキ事

第四条 同前

一 闡取施行ノ儀ハ本廳枝廳又ハ懸隔ノ地ハ已扱所

或ハ戸長宅寺院等一時適宜ニ相定施行イタス  
ヘキ也

第五條

同前

一着手以前其廳ヨリ官賃流出管内地所ノ品目ヲ  
以テ已分シ地名字及別建家立竹木ノ有無ハ勿論  
閑墾ニ供スヘキ地所ハ鉞下年季ヲモ豫メ取調置  
可申也

第六條

及別ノ定額 附 鉞下年季ノ也

一地所ノ取調相濟候上ハ貫屬一人別ニ配當スヘキ及  
別ノ定額ヲ立テ凡管内ノ地所何人分ニ當ルヤ否

ヲ取調フヘキ也

及別ノ定額 定額

一宅地

五及少ヨリ多カルヘカラス

是ハ市街ノ部分ニテ直ニ貸地ニイタスカ又ハ家作ヲ建テ貸置カ現住  
ノ者アリテ昂時ニ利益ヲ得ルモノニ付是等ハ土地ノ實況ニ付利益ノ  
厚薄大イニ不同アレハ等級ヲ分チ坪数ヲ減シ上ハ一及中ハ二及下ハ  
三及ト已分スルヲアルヘシ最モ注意スヘキ事ト知ルヘシ  
此地ハ持借確定候テモ直ニ利益ヲ得ルモノニ付鉞下年季ホヲ賦セス  
最モ多少ノ入費勞力アルハ相当ノ年季勘弁アルヘシ

一耕地

壹町步ヨリ多カルヘカラス

是ハ熟田畑ニテ従前社寺領上地ホノ部分ニシテ小作人並貢租ノ有  
無ニ拘ハラズ貸渡スヘシ  
此地モ又年季ヲ附セサルモノト虽其實荒蕪ニ屬セハ相当ノ年季  
ヲ附スヘシ

一 荒蕪地

二町歩ヨリ多カルヘカラス

是ハ従前官有地并公有林場有税ノ場所ニテモ地元村ニ於テ  
障碍ナケレハ許可スヘキ  
此地ハ開作植藝牧蓄ノ見込ヲ以テスルニハ歛下年季ハ十五年ヨリ長  
カラヌ十年ヨリ短カラザルヲ以テ目的トス

一 山林

五町歩ヨリ多カルヘカラス

是ハ官用ニ供スヘキ良材毎之分ニ限り許可スヘキニテ開作カヌ  
林ノ終ニテ營業イタヌカ願人ノ適宜タルニシト虽氏開作ヲ名トシ一時立  
木ヲ伐採シ其條ヲ捨置キ候様ノ儀最モ嚴重ニ申付公設請書ヲ差  
出サセ置可申

此地モ又林ノ終營業並ニ利益アルモノニ候ヘ氏手入并苗木種付  
等勞カモ用テアルハ歛下年季ハ前同

右ニ掲クル申數ヲ以テ凡ノ準據トナシ壹反歩以内ノ奇數ハ  
超過スルモ妨ケナシ

但陸羽其他信甲越ノ國々ハ荒蕪地山林モ多分ニ有  
之ニ付定額ニ一倍スルモ妨ケナシト虽彼是混雜ヲ生スヘシ  
ニ付追テ處分伺出ツヘシ

第七條

調査ノ法附区カヲ立ツル

一 前条ニ掲クル毎一人ニ貸渡スヘキ及別ノ定額ニ準拠シ實  
地取調ノ地所ヲ区别シテ配当スヘキ人負ヲ見ル例ヲ掲ク

後令ハ管内ニテ貸渡スヘキ地所ノ合計

宅地

一 拾甲歩

内釋

三畝歩

何大区何小区  
何番地

五畝歩

同

七畝歩

同

一及五畝歩

同

二及歩

同

右一例ハ定額ノ及別ニ定ラサルヲ以テ各所ニ散在セルヲ寄セテ  
五及歩ニシタルモノ最モ一大区中カ又ハ凶ヲ異ニスル所可成丈最寄  
ニ就テ合地又ハキ支

四及歩

何大区何小区  
何番地

壹及二畝歩

同

右一例ハ四及歩アリテ一及不豆セルヲ以テ最寄ヨリ増加ス二畝ハ  
定額ニ超過スル一及ニ端タサルヲ以テ之ヲ削テス

六及五畝歩

何大区何小区  
何番地

一人分

内壹及五畝引

右一例ハ一ヶ所ニ一人ノ定額ヨリ多キヲ引ク一及五セト此分又  
次ニ増加ス

一及五畝歩

何大区何小区  
何番地

一人分

三及八畝歩

同

右一例ハ前文ニ削リタルモノハ三及歩ヲ定シタルモノ

二町六及歩

何大区何小区  
何番地

五人分

右一例ハ凡ソ地所ノ区画ニヨリテ五人ニ分ツ一及ノ余歩ハ定地  
削ツル能ハサルヲ以テ寄数ト見テ捨ツヘシ

合計何人分

耕地 荒蕪地 山林

右何レモ宅地ノ振合ヲ以テ区別配当ノ人算ヲ見ルヘシ

第八條

比較ヲ以テ地所ト願人ヲ見ル

一 配當スヘキ人算ノ内其地種品目ニ就キ願人ノ数ニ比較スル所ハ

宅地

實地

五百三十人分

此処ニ願人七百五十人

差引圖ニ洩ルモノ

二百二十人

耕地

實地

六百八十人分

此処ニ願人九百五十人

差引圖ニ洩ルモノ

二百七十人

荒蕪地

實地

五千人分

此処ニ願人百人

地所ヲ余スコトアルヘシ

山林

實地

無数

同断

同断

右ノ如ク宅地耕地三人ヲ余シ荒蕪地山林ニハ地所ヲ余ス  
ヌモ地方ニヨツテ之レ有ルハクニ付第五條ニ掲クル地所取調  
ノ儀ハ豫メ貫屬ノ人算モ心得余ス地所ヲ調フル等無  
益ノ手数ヲ懸サレ様注意スヘクヌ

第九條

圖引地行順序ノ一

一 地所取調ニ願人調方相濟ニタルハ宅地耕地荒蕪地  
ヨリ山林ト順序ヲ設クニ願人多ク地所少キ分ヨリシテ

闈引ヲ施行スヘキ事

第十条 同前

一闈ハ番号ヲ以テ地所ニ配賦イタス共直十二地名及別名記  
載引カセ候トモ適宜施行スヘキ事

第十一条 同前

一宅地耕地荒蕪地山林ト地種品類ニ依テ闈引ノ限  
ヲ定ムヘシ及令ハ宅地ハ本月二十ナレハ耕地ノ分ハ本月十二日  
ト追テ順序ヲ定ム日数ハ七日乃至十日間ヲ隔テ施行  
スルヲ善シトス

第十二条 同前

一其地方景況ニヨリ一概ニ論シカタント虽氏荒蕪地山林ノ  
如キハ土地餘リアリテ願人少ク宅地耕地ノ如キハ貸渡ス  
ヘキ地所ヨリ願人多キハ必然ニ付右闈当リタル土地ヲ直ニ  
持借人ニ授クヘキモノトモ仮リニ地名及別名ヲ認メ府  
捺シ之ヲ与フヘキ事

第十三条 同前

一闈ヲ以テ持借人確定候氏甲ハ南ニ住居シ北ノ地ヲ闈ニ  
引當テ乙ハ北ニト居シ南ノ地ヲ得ルニ及シ便宜ヲ以テ  
甲乙之レヲ交換スル等ハ双方示談ノ上許可スヘキ事

第十四条 同前



一宅地闡引ノ本口地所ハ五百人分ニシテ願人七百人アリ  
闡ニ外ツル二百人ノ者又耕地并荒蕪地山林等ノ闡ニ  
加入致シ度モハ書面式ノ如ク更ニ差出サセ又之ヲ許ル  
如此本人ノ望ミニ應シ漸次施行不苦更

但一人ニシテニタロ貸渡シ候儀ハ一切相成サル更

第十五条 同前

一闡ニ外レタル者漸次後ノ闡ニ加入ヲ許スカ為メ初日闡ノ  
施行日限ヲソノ場所ニ張出シ洽ク知ラシムルヲ要ス

第十六条 他管轄ヨリ持借人ヲ定ムル

一甲ノ府縣貫属乙ノ府縣地所ヲ便宜ニヨリ持借願ヒ

出ル者アラハ甲ノ府縣ヨリ乙ノ府縣へ宛添輪ヲ下ケ渡シ  
其望ミニ應スヘキ更

第十七条 同前

一乙府縣ニ於テハ甲府縣ノ添輪ヲ証トシ本人願出人  
闡日ニ加入セシムヘキ更

但闡引ノ上持借地確定セハ自他ノ本貫ヲ論セス地  
所請ノ廳ニテ證書請書取計可申更

第十八条 持借人確定ノ上更分

一持借人確定ノ上ハ仮證書ヲ引替本證書相渡ス  
ニ付時日ヲ見計ヒ  
此同缺下年季并貸渡シ年季本人ヨリモ  
申立サセ至当年季ヲ吟味確定スル 左ノ書

式ノ通り相認メ且ツ請書申付ヘキ事

官ヨリ渡スヘキ證書ニ式 用紙適宜

證

字何々歟

何國何郡何村何番地歟

切押  
一及別何程

宅地 荒蕪地 田畑 山林

此拜借地稅一年金何圓何十錢

但本年ヨリ可相納分歟 何年ヨリ何年迄免除何年ヨリ可相納分歟

右及別ニ内沃アルハ幾廉ニモ認ムヘシ  
税金ノ如キハ近傍地券ノ稅額ニ准スヘシ  
開墾地ホニ熟地ノ上ニテハ  
差シマカタクハ一時除キ置キ追テ書入ルヘシ

何縣貫屬士族 他貫屬ノ例 貫屬士族

何之誰印

右地所今般願ヒニ依リ何ヶ年季ヲ以テ来ル何年迄  
貸渡候条拜借中賃入又ハ引當ニ金子借入并奸曲ノ  
所業於有之ハ地所取上ノ上嚴重ノ料可申付事

年月日

何府縣官姓名印



拜借人ヨリ差出スヘキ請書ニ式 用紙適宜

御請証書

今般願之通り何國何郡何村地所及別何程当何  
年ヨリ来ル何年迄何ヶ年季ヲ以テ御貸渡ニ相成候ニ付

拜借中大切ニ相心得賃入書入并奸曲ノ所業者ハ勿  
論税金滞リ等於有之テハ地所御取上ノ上何様ノ御所  
置候共申分無御座候依之御請如此候也

年月日

何府縣  
貫屬士様

何之誰印

何府縣官名姓名殿

第十九条 同前

一 貸渡年季ハ地方ノ見込ミヲ以テ二十年ヨリ不短六十年  
ヨリ長カラサルヘシ

第二十条 同前

一 貸渡シ地所ノ内建物之レアル片其修用元見込ノ分ハ相當  
代價ヲ以テ払下ル須又年賦上納ノ積ニ取計ヒ如シ不用ニ  
屬跡地ノミ入用ノ分ハ入札松ニイタシ代金ハ官納イタスヘキ也

第二十条 同前

一 拜借濟ノ上ハ雇人ヲ以テ閑作又小作ニ任セ候ハ勝手タルヘ  
キ也

第二十一条 同前

一 拜借證書下々渡シノ後第十三条ノ如ク双方示談ノ上  
甲乙地所ヲ交換イタシ度願ヒ出ツル者アラハ新タニ證書

ヲ作ルニ及ハス甲ノ證書ニ記載ノ姓名ヘ朱點ヲ加フルカ又ハ張紙ヲ以テ交換シタル乙ノ姓名ヲ認メ合印ヲ捺シ置キ候トモ成ルヘク史々簡易ヲ旨トスヘシ

但請書ハ更ニ差出サセ可申支

第二十二條

一右之方法ニ拠リ拜借地施行候ニ付證書渡サル以テ詳細ニ取調当者ヒ一々伺之上度分候積相心得可申支

第二十三條

一五石以下削祿不相成者ハ地所貸渡ニ不及支  
但追テ度分ノ積リ相心得マヤ支

第二十三條

一地所拜借ノ上永久此地所ヲ以テ所有トナサント凡者ハ願出次第相當ノ代價ヲ以テ払下ケ直ニ普通ノ私有地トナスヘシ



九  
省